

40代の肌弾力を10代並に

R体αリポ酸+Q10

シクロケム

シクロケム(東京都中央区、☎03-5661-7147)は、抗糖化に

よる肌の弾力性改善効果があることから、包接加工した「R対αリポ酸」と、「CoQ10」の併用摂取を提案している。

αリポ酸とCoQ10は、食事から摂取した糖が代謝されエネルギーを生ずる過程において必要不可欠な元から体内に存在する成分だが、共通の

問題として生体内合成が20歳をピークに減少していく点がある。

糖代謝が円滑に行われず結果としてグルコースが生体内に過剰に存在すると、「糖化反応」が起こり、体に様々な影響をもたらす。そのうちの1つが、しわの増加だ。

しわは真皮層で作られているが、その70~90%はコラーゲンが占めている。糖化反応が起ると

コラーゲンを変性させて肌の弾力が失われ、肌触りが固くなっていく。

また皮膚を形成しているケラチンタンパクも過剰なグルコースとの糖化反応によって褐色変化したのくすみ(肌コゲ)が発生し、肌状態は色調、弾力性とともに悪化していく。

そこで同社は自社製品のαリポ酸、CoQ10配合錠を用いて抗糖化による肌弾力性の向上を検証。試験機関の総合健康開発研究所が896人の女性を対象に行った年代別の肌弾力性試験では、

20歳の弾力性は86.9%だが、50歳代になると81.1%まで低下するところが分かっていく。データを比較するために同じ研究所に検討を依頼した。

平均年齢47歳の女性を対象に8週間に渡り摂取してもらい、肌の変化を測定した。その結果、対象者の肌弾力性は摂取前81.0%だったのが、4週間後に85.9%に。さらに8週間後には88.2%に向上し、20代の平均値よりも良好な状態になった。

さらに同社は今後の方向性として、通常のαリポ酸を「R体αリポ酸」に置き換えた試験を行っている。

αリポ酸はR体とS体があり、本来人の体内ではR体のみが糖代謝に利用されており、S体は代謝を阻害することが明らかになっている。

安定性の問題から通常市場に出回っているのはRとSを同量含んだラセミ体。同社はこの問題をCD包接することで解決し、R体αリポ酸の製品化を可能にした。